

## Study Abroad Case 7

# 異文化に飛び込み、五感をフルに働かせて場を感じ、 新たな仲間と出逢う

長島 功

私は、イタリアはヴェネチア本島にあるヴェネチア大学に2015年8月から1年間、交換留学をしました。兵庫県神戸市に生まれ18年間育ちました。国際線パイロットを夢見ていたことや、幼い頃から英語に触れる機会が多かったことなどもあり、高校生の頃から留学をしてみたいという想いがありました。大学入学以降、留学生を含め多様なバックグラウンドを持つ人々との出逢い、バックパックの旅を通して20カ国を旅したことなど、異文化・未知のものに触れることに常に心を躍らせていました。異文化に飛び込み、五感をフルに働かせてその場を感じ、新たな仲間と出逢うことがもっともっとしたいと思い、入学以降大事にしている「自ら創り出した機会において、自らを成長させる」という言葉を胸に、留学を決意しました。

ヴェネチア空港に初めて着いた時に、今までの環境とは全く異なる人・場の雰囲気を感じ、「この場所で自分は1年間生きていくのか」という、不安と高揚が入り交じったあの感覚を今でも忘れることはできません。その様な場で過ごした1年間の留学は、驚きとチャレンジの連続であり、その度に新たな気づきがありました。最初の驚きは、通学手段は船だということでした。毎朝船に乗り、授業に向かい、1限と2限がそれぞれ違う島で行われることもありました。特に印象に残っている授業は、イスラエル人の教授の



National Border についての講義です。当時パリで連続テロが起こったことなどもあり、イタリアでは中東からの難民、入国規制の問題が毎日とりあげられていました。イスラエルからの留学生も含めたおよそ10カ国からの留学生とのディスカッションは非常に刺激的で、白熱した授業でした。授業外では、毎晩24時まで公立図書館で辞書とにらめっこしながら、イタリア語を必死に勉強しました。

留学中、私はヴェネチア大学のドラゴンボート部に所属していました。部員が100名程度のうち9割がイタリア人、その中で唯一のアジア人という状況で、入部させてほしいと監督に頼みに言った際は「Sei Forte!!?(お前は強いのか)」と言い放たれ、当初は部員として認められない状況でした。週4回のトレーニングは非常に厳しいものでしたが、チームメイトと積極的にコミュニケーションを図り、レギュラーになるために人一倍練習に打ち込みました。徐々にチームでの信頼関係が構築され、春には16名の選抜レギュラーに選ばれました。最終的には、イタリア全国大会男女混合1500m、2000mの部で準優勝、国際大会では総合3位を獲得することができました。帰国前に監督、全選手で「Grazie mille(本当にありがとう) ISAO」と言ってくれ、ワインで乾杯した瞬間には目頭が熱くなったことを覚えています。



また、留学中は出逢いの連続でした。1年間ホームステイで暮らしましたが、ホストファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。本当にかけがえのない、ヴェネチアでの家族になりました。

イタリア留学は、私の世界観を変化させ、また形成してくれたと思います。自分の中にある価値観、文化が多様化し、世界の見方が変わり、地球がより立体的に見えるようになったと思います。イタリアでの留学は終わりましたが、イタリアで感じたこと、学んだこと、すべてを五感に刻み、馴染ませ、新たな環境下で挑戦の一步を踏み出したいと思います。

**Personal Data** 長島 功 (ながしま いさお)

留学先：ヴェネチア大学 (イタリア) 交換留学

留学期間：2015年8月～2016年6月 (留学時の学年：3年生)

ゼミナール：アジア経済と日本 (トランヴァントゥゼミナール) 所属